

■主役は俺だー 2024年秋⑦ 2部編

- 三浦健佑（みうら・けんすけ） 北星学園大4年 OL/LB
- 仲上日陽（なかがみ・ひなた） 札幌学院大2年 QB/WR/DB
- 桑原 陸（くわばら・りく） 北海道科学大1年 OL/DL

北星学園大のLB三浦健佑（4年、北星学園大付属高）が、最短での1部復帰に向けてのろしを上げたのが6月9日のオープン戦。札幌学院大と合同チームで北海道科学大と対戦し、1TD、2インターセプトと大暴れした。TDは第3Q。北海道科学大のファンブルボールをスクリメージライン付近で拾い上げると、そのままエンドゾーン目がけて力走。「元々はRB志望だった」という脚力で49ヤードのTDリターンを披露した。「今まで1部でやってきたので」と当たり前のようにビッグプレーを振り返った。



選手不足に泣いた昨季。前年のリーディングパサーを擁しながら棄権2試合を含む5連敗で、無得点に終わった。入れ替え戦も完封負けし、14年間守った1部から陥落した。今季も16人の少数精鋭で臨む。主将として「基礎をしっかりと固め、選手の間人性も成長させる」と決意しながら、163センチ、95キロの鍛え込んだ体で「フィジカルと足の速さには自信がある。リーグ戦2試合で5本のインターセプト」とチームを引っ張るつもりだ。「実は、2030年に1部優勝を」とOBと話しているんです」と三浦。大願への助走が始まる。

185センチ、97キロの堂々とした体から豪快なボールが飛ぶ。札幌学院大の期待のQB仲上日陽（2年、東海大札幌高）のパスだ。高校時代は陸上部のやり投げ選手。3年生の時は全道高校大会で優勝し、インターハイにも出場した。高校時代の友人に「アメフトでも活躍できる」と薦められてアメフト部の門をたたいた。やり投げの実績で、即QBに抜擢された。「やり投げは自分のタイミングで良かったが、パスはレシーバーと息を合わせなきゃならない」と苦心もあったが、昨秋の北海道科学大戦で2本のTDパスを決め、自信が付いた。



「初TDは、めっちゃうれしかった」と振り返りながら、2シーズン目のゲームプランを描く。1990年代に1部で3連覇した古豪も、選手不足で2部に降

格して4年目。復活の鍵を握る豪腕は「得意プレーはロングパス。50ヤードは投げられる」と胸を張り、「全試合で3TD以上したい。QBランでもTDしたい」ともくろむ。主将でもあるホットラインのWR芝辻俊希（4年、星槎国際高湘南）と、パスプレーを支えてくれるラインに感謝しながら「目標は1部昇格です」と力強く言い切った。

北海道科学大のゴールデンルーキーが190センチ、98キロの桑原陸（1年、札幌手稲高）だ。攻撃ではC、守備ではDE。巨体とパワーで相手ラインに圧力をかける。6月9日の北星学園大・札幌学院大合同チームとのオープン戦では、札幌学院大の仲上をサックした。「真っ直ぐ突っ込んでいったら、ボールを持ったQBがいた」と、してやったりの笑顔。185センチの仲上に「あいつは大きい」と言わせた新人DEは、「秋のリーグ戦でもQBサックをたくさん決めたい」と一気に自信を深めた。

高校時代はハンドボール部。「リーチの長さが武器。DEの時に相手ラインをコントロールできる」と言う。Cとしては「ダイブを確実に出す」とブロック技術を懸命に磨く。北海道工業大時代の2012年を最後に1部から遠ざかり、22年には選手不足から合同チームで2部にオープン参加した北海道科学大。昨年、単独チームを復活させ、今年は選手20人を確保して再建の歩みが加速する。周囲の期待にこたえるように桑原は「2部優勝して1部に上がりたい。1部の強いところとやりたい」と力を込めた。

